



若冲—〈動植綵絵〉を中心に 2018年秋、パリのプティ・パレ美術館における展覧会開催が決定

国際交流基金/ジャポニスム事務局は、日本経済新聞社、宮内庁、パリ市立プティ・パレ美術館/パリミュゼとの共催により、展覧会「若冲—〈動植綵絵〉を中心に」を開催する運びとなりました。日仏友好160周年を機に、パリを中心にフランスで開催する大型日本文化紹介行事「ジャポニスム2018」の主要事業として企画されたもので、会期は、2018年9月中旬から10月中旬の1か月間を予定しています。

本展覧会は、伊藤若冲（1716-1800）の最高傑作と目される〈動植綵絵〉30幅を、現在も京都・相国寺に伝わる〈釈迦三尊像〉と共に、ヨーロッパにおいて初めて紹介いたします。〈動植綵絵〉は、〈釈迦三尊像〉を厳かに飾る為に描かれたもので、釈迦の教えに集うこの世の様々な生き物たちを表しており、若冲自身によって相国寺に寄進され、大切にされていた作品です。若冲による観察に基づく写実性と、写実を越えた装飾性を加え、限られた絵具で様々な色彩を生み出し、またその色彩表現に工夫を重ねて描かれた30幅の作品は、驚くべき緻密な描写と極彩色の花鳥画に仕上げられ、芸術的のみならず、技術的にも近世日本絵画の最高水準を示しています。

日本国内では、2016年の若中生誕300周年を機に行われた展覧会が社会現象となり、若冲への関心がより高まりました。フランスでは、若冲の作品がこれまでまとまって紹介されたことはありません。海外における〈動植綵絵〉の展示は、米国のワシントン・ナショナル・ギャラリーで2012年に開催された展覧会のみです。

〈動植綵絵〉は、1889年に作品の保護を願って相国寺から皇室に献上され、1993年からは、皇室伝来の美術品を収蔵する宮内庁三の丸尚蔵館で所蔵されています。このたびの展覧会は、この若冲の畢生の傑作を本来の一体の姿によりヨーロッパで紹介するまたとない機会となります。



伊藤若冲(群鶏図) (動植綵絵 30幅のうち)
宮内庁三の丸尚蔵館所蔵

展覧会概要

- 【名称】 「若冲—〈動植綵絵〉を中心に」
 - 【会場】 パリ市立プティ・パレ美術館（フランス）
 - 【時期】 2018年9月中旬から10月中旬の約1か月
 - 【主催】 国際交流基金/ジャポニスム事務局、日本経済新聞社、宮内庁、パリ市立プティ・パレ美術館/パリミュゼ
 - 【キュレーター】 太田 彩（宮内庁三の丸尚蔵館主任研究官）
マヌエラ・モスカティエツコ（パリ市立チルヌスキ美術館日本コレクション担当）
- 以上

パリ市立プチ・パレ美術館 クリストフ・ルリポー館長からのメッセージ

フランスではまだ知られざる、日本の素晴らしい文化遺産の一つを人々に紹介できることは、プチ・パレ美術館にとってもパリ市にとっても、このうえない栄誉です。若中の類まれな才能を発見することで、フランス人が日本の文明、そしてその多様性への憧れをますます強くするものと断言いたします。

「ジャポニスム 2018」とは：

2016年5月、安倍総理とオランド大統領（当時）の合意に基づき、日仏友好160周年にあたる2018年、パリを中心にフランスにおいて日本文化を大規模に紹介する大型文化行事「ジャポニスム 2018」を開催する運びとなりました。

「ジャポニスム 2018：響きあう魂」というタイトルの下、2018年7月から2019年2月の会期中、歌舞伎、能・狂言、雅楽等の伝統文化から、現代演劇・美術やマンガ・アニメ展、日本映画の上映等まで幅広く企画実施する予定です。

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を見据え、日本各地の祭り等を通じて地方の魅力を発信し、インバウンド観光の促進、和食・日本産酒等日本産品の海外展開に繋がることも期待しています。

※国際交流基金「ジャポニスム 2018」ウェブサイト：<https://www.jpff.go.jp/j/about/area/japonismes/index.html>

伊藤若中（いとう じゃくちゆう）：

正徳6年（1716）京都・高倉錦小路の青物問屋「栂屋」の長男に生まれました。幼少より絵画に関心を持ち、初めに狩野派の画師である大岡春朴（1680-1763）に学んだといわれています。23歳にして四代目栂屋源左衛門を継ぎ、家業の商いと並行して画事の習得を継続、狩野派の画法を超えるために中国画にも多く学びました。40歳にして家督を弟に譲り、ようやく画業に専念した約2年後、〈動植綵絵〉に着手したといわれます。色彩鮮やかな描写に大胆な水墨描写も加え、様々な花木、鳥、虫、魚そして魚貝にまで及んで、機知的な構図は、観る人々を魅了します。辻惟雄『奇想の系譜』（1970）で紹介されて後、次第にその独自の画風の再評価が進み、「生誕300年 若中」展（東京都美術館、2016）では31日間の会期で44万人を超える来場者数を記録しました。

パリ市立プチ・パレ美術館（Petit Palais, Musée des Beaux-Arts de la Ville de Paris）：

市内中心部に位置するパリ市立プチ・パレ美術館は、1900年パリ万国博覧会の際に建てられました。古代から20世紀初めまで幅広い美術を紹介する、パリを代表する美術館の一つです。ドラクロワ、クールベ、モネをはじめとするフランス絵画や彫刻の他、中世、ルネサンス、17世紀のフランドル絵画、18世紀の家具、タペストリー、アール・ヌーヴォーなどの充実したコレクションを所蔵。1900年の開館以来、100年を超えて、数々の優れた企画展を開催しています。

住所：Avenue Winston Churchill, 75008 Paris, France

ウェブサイト：www.petitpalais.paris.fr